

『琉球弧を戦場にするな』

【この映画を観て、考えたいこと】

南西諸島（琉球弧）の島々で、今、何が進められているのか、そしてそれらが、私たちを戦争の危険に引きづりこんでいくものかということ、きちんと把握していかなければならないと、ずっと思っていました。

この映画の監督の藤本幸久さんと影山あさ子さんは、2004年、辺野古の基地建設に反対して闘う人々を撮影して以来、20年にわたって沖縄島や南西諸島で進められてきた「戦争の準備」をドキュメンタリー映画として制作してきました。

今回の映画ではとくに、これからのここで繰り広げられようとしている実質的な「戦争の危険」を見つめていると思います。米軍や自衛隊、米大使、防衛省の高官の談話やインタビューによって、彼らがどのように「戦争の準備」を進めているか、そのねらいはどのようなものなのかを問い明かそうとしています。

藤本さんは「辺野古を止めれば、戦争を止めることができている」と思っていた。20年たっても辺野古の基地はできていないが、戦争の準備は琉球弧全体に広がって、どんどん進められていっている」とお話をされていました。

2015年の安保法制（集団的自衛権の容認）によって、軍備の増強、とくにアメリカと一体になった軍備の拡張（敵基地拡張能力を持った機器配備など）によって戦争の危機は広がっています。自衛隊はすでにアメリカ軍の指揮下に置かれ、その指揮の下に有無を言わず戦争を行う体制に組み込まれています。それを具体的に共同演習や合同訓練がくり返されています。

私たちは、まず映画を見て、①今、南西諸島で繰り広げられている基地建設と戦争の準備の実態を知りたいと思います。そして②「戦争をする国」をつくるための政策や法制化はどのように進められてきたか、それを③「中国封じ込め戦略」や「日米共同軍事行動」によって、どのように実行しようとしているのか、さらに、④こうした戦争に向かおうとしている状況をどうしてメディアは取りあげないのか、戦争を煽るような報道を続けるのかを考えたいと思います。

アメリカは第二次大戦後、10年に一度は戦争をやってきた国です。その多くがアメリカがきっかけを作ったとされている戦争です。そうした戦争に今、自衛隊が先頭に立って戦争を起こしていく役割を担おうとしています。

藤本さんたちの作品に『One Shot One Kill』（2011年）と言う作品があります。アメリカの海兵隊の新兵訓練所の訓練に密着した衝撃作です。そのアメリカの兵士の代わりに日本の若者が戦って、殺し合い、死んでいく戦争がそこまで来ています。

戦争はまた、兵士だけが殺し合うものではなく、全住民、全市民が巻き込まれるものです。それを今、止めなくて、いつ止めるのか。私たちの政府は、その声を聞こうとせず戦争の道を着々といま、進めています。

「自衛隊のみなさん、アメリカのために戦争をしないでください」。沖縄島うるま市陸上自衛隊勝連分屯地前で自衛隊車輛を止める運動に声をあげていた具志堅隆松さんの声が、ずっと耳に残ります。

第78回 憲法を考える映画の会
琉球弧を戦場にするな

2024年10月14日（休・月）
13時30分～16時30分
文京区民センター 3A会議室
(地下鉄 春日駅 2分・後樂園駅 5分)

■プログラム
13:30～13:40 この映画について
13:45～14:40 映画『琉球弧を戦場にするな』
上映 (55分)
14:50～15:50 藤本幸久監督のお話
(追加映像 上映を含む)
15:50～16:30 質問・トークシェア

■参加費：一般 1000円 若者 無料
(会場でお支払いください。予約不要でどなたでも参加できます)

【この映画のねらい】
私たちは中韓で撮影始めたのは2004年。辺野古では、住民たちがプルトニウムと燃料棒の新しい基地建設のために、活動を必死に止めてきました。20年後の今、辺野古の新しい基地はできません。しかし、九州の南から台湾にかけて伸びる琉球弧の島々は、自衛隊の基地だらけとなりました。

2016年に与那国島に陸上自衛隊のレーダー基地がつくられ、沿岸監視部隊が配備されました。19年には古島と美久保に、23年には石垣島にミサイル基地がつくられました。沖縄島にもミサイル部隊が配備されました。すでに島地の防衛も、基地の拡大が止まりません。自衛隊が島を守る防衛態勢を築き、自衛隊が島上段安存が自由に使える巨大な港をつくる計画も進められようとしています。

日米同盟の軍事同盟は先見もなく続けられ、防衛省の原案や米海軍の進出の議論が行われています。同時に琉球弧の島々の防衛も、古島の公営施設には連年の設備が整備されています。地盤で島々の場所を見てみてください。仮設施設、中国に対する軍事基地を琉球弧に構築するという戦争準備、戦争の形がはっきりと見えてきます。計画されている次の戦争は、日本の領土保全に、防衛省・中国・中国に対する戦争、その主眼が琉球弧なのです。与那国では有事の際、住居に避難費用を支給する条例が2022年に議会でも可決されました。米海軍が防衛省がその機会に「各自でなんとか生きてくれ」と言っていたのは驚愕でした。

島の軍備化の進展も、住民の危機感も、休みなく続く日米の軍事同盟も、住居の危機感も、伝えないで、私たちがやるしかありません。

この『琉球弧を戦場にするな』は、属毛島から与那国島まで、琉球弧の存在を撮影し、5月20日に完成させたものです。戦争を止めるのは、戦争が始まる前、今しかありません。そして、戦争を止めるのは、本気の意思と行動です。市民一人ひとりの行動が未来を救う希望です。この希望を大きなものに育てていくために、この作品を作りました。ぜひ、上映会を聞いて皆さん自身が「伝えない」になつてほしい。心からお願いします。

ドキュメンタリー映画監督 影山あさ子

【この映画を見て考えたいこと】
2004年、辺野古での基地建設反対運動の取材以来、藤本の映画監督の藤本幸久さん、影山あさ子さんは南西諸島（琉球弧）の島々での米軍及び自衛隊基地建設反対する運動を撮影し、その真実を私たちに知らせてくれる映画を作り続けてきました。

今回、その基地建設反対運動の現状を扱った『琉球弧を戦場にするな』(2024年5月完成)を一緒に見て、あわせて藤本監督の経緯も、いま南西諸島で進められている「戦争の準備」を再確認し、自分たちの運動として見直し、考えたいと思います。

そして、①琉球弧で進められている軍事基地計画、施設、兵器配備の真実を知り、②それら「戦争をする国」をつくるための政策、法制化はどのように進められてきたか、③中国封じ込め戦略、日米共同軍事行動のねらいはどのようにあるのか、また、④「戦争をする国」政策、ここで起きていることを、島民に知らそうしないメディアの問題などの側面を、時間軸でとらえ、その全体の姿を把握したいと思います。

多くの人が、琉球弧に起きている「戦争の危険」を、どのように知らせ、その問題を自分たちが「戦争をして」進めて行かなくてはならないか、考えたいと思います。

戦争の準備をさせてはいけません。戦争をさせてはいけません。若者に殺し合いをさせてはなりません。

第78回 憲法を考える映画の会

- 日時：2024年10月14日（休・月）
13時半～16時半
- 会場：文京区民センター 3A会議室
(地下鉄 春日駅 2分・後樂園駅 5分)
- プログラム
13:30～13:40 この映画について説明
13:45～14:40 映画『琉球弧を戦場にするな』
上映 (55分)
14:50～15:50 影山あさ子監督のお話
※藤本幸久監督に代わって、影山監督にお話をいただきます。
※「お話」の中に『One Shot One Kill』からなどの追加映像上映を含みます。
15:50～16:30 トークシェア
- 参加費：一般 1000円 若者 無料

憲法を考える映画の会

連絡先：〒185-0024 東京都 国分寺市泉町3-5-6-303
mail : hanasaki33@me.com
TEL:042-406-0502
http://kenpou-eiga.com/?p=3022

第79回 憲法を考える映画の会

と き：2024年12月7日（土）応募中
 （10月1日に抽選、結果が確定します。10月14日の映画会では確定したご案内ができると思います）
 ところ：文京区民センター
 （地下鉄春日駅2分・後楽園駅5分）予定

*プログラムはまだ決まっていません。上映会のほぼ1ヶ月前をメドに試写会を行っています。試写会に参加をご希望の方はお知らせいただければ案内します。
 *プログラムについてのご意見、ご提案などもお待ちしております。

第10回 むのたけじ反戦塾

と き：2024年11月16日（土）
 13時30分～17時（13時開場）
 ところ：文京区民センター 3C会議室

2022年12月から始めた学習会（むのたけじ反戦塾）も8月で9回目、11月には10回目になります。

この「むのたけじ反戦塾」は、2015年5月の有明憲法集会でのむのたけじさんの反戦の演説から始まっています。むのさんの晩年の反戦の訴えを記した著書、むのさんの講演の映像を一緒に見て「戦争はいらぬ 戦争をやらぬ世へ」を実現するためにどうしたら良いか、「たいまつ」の精神で、ひとりひとりが思うことを出し合い、方法を考え、意識を深めています。

これまで話し合いの中から、とくに今回は戦争をさせないための国際関係、人々の反戦の意識について考えていきます。

2～3ヶ月に1度のペースで、少人数で話し合います。
 *問合せ先：090-4599-5314 武野
 〒338-0006 さいたま市中央区八王子4-7-10-201
 E-mail:dmuno@jcom.home.ne.jp

「映画の会」案内郵送費 キャンパのお願い

「憲法を考える映画の会」の案内を郵送でご希望の方に、郵送費のキャンパをお願いしております。

新たに郵送での案内を希望する方は、上映会の「参加票」にその旨、お書きください。

または、このチラシの表面の連絡先にメール、郵便、電話などでお知らせください。

郵送費のキャンパは「お気持ち」の額を、映画上映会の時に「受付」のキャンパ箱にお入れください。

また、郵送で（封書に1000円札1枚を入れて）送っていただいても、110円切手を10枚程度を送っていただいても結構です。

何とぞよろしくお願いいたします。

郵送費は今年の10月1日から110円に値上げになります。「憲法を考える映画の会」は、2ヶ月に1回の目安で年間計6回の上映会を予定しています。

その案内をさしあげていますが、1回あたりの郵送経費（封筒、宛名シール、送り状コピー代などで150円経費がかかってしまいます。

メールでの上映会案内のご希望は、これまで通り、上映会の「参加票」、またはメールでお知らせください。

憲法を考える映画の会の活動案内

○憲法を考える映画の会 上映会

・2ヶ月に1回、主に文京区民センター（地下鉄後楽園駅・春日駅）で上映会と映画の後、その映画について話す短い話し合い（トークシェア）の時間をプログラムにしています。
 ・上映作品の背景を知って、理解を深めるために毎回「手元資料」を制作して会場で配布しています。

○憲法映画祭

・毎年、憲法記念日の前の土曜日か日曜日、主に武蔵野公会堂（吉祥寺駅）で朝から夜まで、少し規模を多くしての映画祭を行います。

○憲法を考える映画のリスト

・自分たちが上映会をした映画を中心に、できるだけあちこちで上映会が活発に出来るよう映画のリストを作りました。
 ・2024年版は、220の新旧の作品の上映料や問合せ先をリストにして掲載しています。
 ・ご希望の方は、表面の「憲法を考える映画の会」まで、ご住所をメールまたは郵送でお知らせください。上映会の会場でも販売しています*1部500円（+郵送の場合送料250円）



○ホームページ「憲法を考える映画」

・主に憲法を考える映画の会関連の上映会、催しなどの商會をしています。http://kenpou-eiga.com/
 ・映画会の「手元資料」や案内チラシなどのpdfも、この上映作品ごとのページからダウンロードできます。

○Facebook「憲法を考える映画の会」

・上映会の案内を中心に、各地の憲法に関連するような講演会や催し、学習会などを毎日更新してご案内しています。

○法学館憲法研究所ホームページ「シネマde憲法」

・広い意味で憲法に関連した新旧の映画の紹介を毎週お送りしています。

上映会案内

10月5日（土）11時～『正義の行方』（宮地楽器ホール＝武蔵小金井駅）
 10月12日（土）～11月30日（土）「第9回ねりま沖繩映画祭2024」10月12日（土）13時半・17時『戦雲（いくさぶむ）』（練馬区役所 地下多目的会議室）10月13日（日）11時『沖繩カミングアウト物語～かつきママのハグ×2 珍道中！～』14時『紫 MURASAKI 伝説のロック・スピリッツ』18時『沖繩カミングアウト物語』（練馬区役所 地下多目的会議室）10月14日（月・休）18時半『紫 MURASAKI 伝説のロック・スピリッツ』（Coconeri 3階＝練馬駅）10月27日（日）18時『ファニーズ』（練馬区役所）11月2日（土）18時『ファニーズ』（練馬区役所）11月16日（土）15時半真喜屋力監督 Special Movies 18時半『劇場が終わるとき』（練馬区役所）11月29日（金）14時『GAMA 月桃の花』（練馬区立生涯学習センター）11月30日（土）11時『GAMA 月桃の花』武蔵大学江古田キャンパス
 10月27日（日）くにたち映画祭 10時・14時・17時半
 『映画 ○月○日、区長になる女。』